

意見交換会実施報告書

令和5年9月11日

赤穂市議会議長 様

民生生活委員会委員長 家入 時治

民生生活委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和5年8月17日（木）13時30分～15時15分
開催場所	赤穂市役所6階 大会議室
意見交換会テーマ	認知症カフェの現状と課題について
出席委員	代表者：家入時治 西川浩司 司会者：中谷行夫 前川弘文 記録者：安田 哲 瓢 敏雄
相手方団体名 及び参加者数	認知症カフェ及びチームオレンジ運営者 10名 オブザーバー 地域包括支援センター 2名
主な意見等	<p>1. 概要</p> <p>認知症カフェ及びチームオレンジの運営に係る背景、目的や運営状況について各団体から情報収集し、さらに運営上の課題や行政に対する意見・要望について伺った。</p> <p>2. 意見・要望他</p> <p><u>①認知症カフェの団体紹介や取組みの周知について</u></p> <p>新型コロナウイルスの影響で活動を休止した団体も多く、再開後も参加者が増えないといった課題もある。団体に関する紹介や活動内容の周知等（広報紙、SNS、回覧）について協力して欲しい。</p> <p><u>②利用者の移動手段の確保等について</u></p> <p>カフェ利用者の大半は高齢者であるため、開催場所までの移動が難しく、或いは開催場所がバリアフリー対応できていないと、利用者の参加しようとする意欲をそいでしまう。</p> <p>他自治体が実施している「乗り合いタクシー」等の実施や会場となる施設のバリアフリー化に伴う助成などを是非検討して欲しい。</p>

	<p><u>③介護者の孤立について</u></p> <p>男性介護者や介護状態にありながらまだ介護認定を受けていない方を介護しているご家族は支援機関との繋がりが薄く孤立化しやすい。そういった方々へのセーフティーネットが必要。認知症カフェ等の団体が関係機関への橋渡しとなる役割が重要であり、その為にも関係機関から各団体への積極的な情報提供をお願いしたい。</p> <p><u>④地域密着型の支援について</u></p> <p>より小さい単位で身近に助け合える社会の構築が必要。しかし、赤穂市は認知症カフェの数が少ない。もっと各地域に開設してもらえるよう、開設や運営に関する講座等を実施できないか。また運営にかかる費用補助（施設使用料等）をお願いしたい。</p> <p>また地域の集会場の活用も含め自治会の積極的な関与が期待できないかという意見もあった。</p> <p><u>⑤認知症に対する偏見の解消について</u></p> <p>「認知症カフェ」の名称そのものに対して抵抗感を感じる方が多い。国が進めている事業なので難しいとは思いますが、他の名称は考えられないものか。認知症は誰しもがなり得ることであり、もっと認知症に対する人々の理解を深めることが重要である。</p> <p><u>⑥その他意見・要望について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の食事サポートを通じた見守り・支援ができないか。 ・遠方に住んでいる独居高齢者の家族と地域の方（民生委員等）とが連絡、情報共有しやすい環境づくり。 ・様々な問題を抱えた多様な方々が集える場所づくり。
委員会のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ、チームオレンジの開設を行政が推進する以上、開設・運営や開設場所のバリアフリー化を支援する補助金制度の拡充が必要である。 ・「認知症カフェ」の名称に対する先入観・偏見がある。「オレンジカフェ」などの工夫とともに、誰もが気軽に参加できるよう紙媒体や SNS 等による情報発信が必要である。 ・より身近にサポートが受けられるよう、オレンジサポーター（チームオレンジ）を増やしていかなければならない。 ・既に広がりを見せている「いきいきサロン」や「いきいき百歳体操」のように認知症カフェも展開していくことができるのではないか。

- ・地域コミュニティの再生こそが誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながると考える。
- ・認知症の方を介護するご家族は、介護の負担はもとより、その負担に伴う不安や精神的苦しみを家族だけで抱えている場合が多い。その一助となる認知症カフェやチームオレンジの活動は大変重要であり、関係機関との連携強化や行政の積極的な支援が必要と考える。

☆9月11日（月）

各団体・関係者からの貴重なご意見と民生生活委員の意見を含め協議した。委員会がその内容を各担当部局と意見交換することとし日程調整する。